

ではないから、今日の社會の様な恐ろしい不公平や不經濟を生じないことは確か
だらうと思ふ。

又今日でこそ、多くの少年青年が紳士になりたがつて、自分の適否などを考へ
る遣もなく、無暗に學問や技藝なみやらうとするが、いづれにしても生活の安全
な社會に在つては、強いて自分の不得手な事を希望する者はない筈である。例へ
ば教師が大變名譽な職業であるにしても、相當な學問の出來るだけの力量のない
者が、強いてそれに成らうとする氣遣ひはない。今日では、何でもかでも中等教
員の免状さへ取れば、兎に角相當の紳士として食つて行かれるし、社會の尊敬も
受けられると云ふ様なわけで、少し學資の都合さへつけば、元來それだけの素質
のない者でも、無理やり中學校の先生になつたりして、あこで實力なり徳望なり
が足らずに、非常に苦しんでゐる者も少くないが、自由な新社會にはそんな馬鹿
の聞る音がない。欺平になるのは各層に附随するまいが、なつた上ではオハリ下

手くをで皆に樂は花では確さらしである。村の素人芝居なら、樂はれても
聯さらしでも、矢張りそれで得々としてゐるが連中もあつたらうが、冗談事でない
生涯の職業に、そんな馬鹿な真似をする者はない筈である。

七

要するに、新社會に於ける職業の劃當(若しくは選り好み)を案じる人は、今
日の紳士病が骨の髄まで浸みこんでゐるのである。喉嚨を自分であけに行くの
は紳士らしくない、なご、考へるのは、人に喉嚨をあけさせては濟まぬと考へるは
ごの、紳士らしい心得のない人である。その心得のない人々が肥後問題を以て社
會主義に反對し、扇を以て入目を扇ぎ返さうとする様な真似をするのである。